# 国語(現代文・古文)　京都大学　理系学部　(前期)　1／3

## ＜総括＞

| 出題数 | 現代文　2題・古文　1題 | 試験時間 | 90分 |
|---|---|---|---|

・山村に移住するという友人からの手紙をきっかけに、かつてその山村を旅した折の様々な想いを綴った随筆からの出題。
・本文の分量は昨年度よりやや減少している。昨年度は出題された漢字の書き取り問題がなく、説明問題は四問となっている。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度と同じ１２行であり、特に負担が増加したとは言えない。また、全体の難易度は、ほぼ例年並。
・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。

## ＜本文分析＞

| | |
|---|---|
| 大問番号 | 一 |
| 出　典<br>(作者) | 串田孫一『山村の秋』 |
| 頻出度合<br>・的中等 | なし |
| 分　量<br>前年比較 | 分量（減少・変化なし・増加） |
| 難　易<br>前年比較 | 難易（易化・変化なし・難化） |

## ＜大問分析＞

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど） |
|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 随筆 | 問一 | 記述式 | 標　準 | 傍線部の内容を説明する問題。(解答欄３行)<br>直前の「贅沢」を踏まえ、「ずるい」という表現の内容を類推する。 |
| | | 問二 | 記述式 | 標　準 | 傍線部の内容を説明する問題。(解答欄２行)<br>「こういう」の指示内容を丁寧に読み取る。 |
| | | 問三 | 記述式 | 標　準 | 傍線部の理由を説明する問題。(解答欄３行)<br>傍線部直前の「ところが」という表現に注目し、文脈を正確に読み取る。 |
| | | 問四 | 記述式 | 標　準 | 傍線部の理由を説明する問題。(解答欄４行)<br>どのような「秘密」なのか、文脈から的確に読み取る。 |

※難易度は５段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

・たんに字面を追うだけの読みとりでは高得点は望めない。文章の主題や筆者の主張を本文全体から的確に把握するとともに、個々の文脈を精確に押さえる読解力が不可欠である。
・設問の意図を踏まえた上で、理解した事柄を簡潔・的確に表現してみるといった訓練も欠かせない。
・今年度、漢字問題は出題されなかったが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

© 河合塾　2017年

# 国語(現代文・古文)　京都大学　理系学部（前期）　2／3

## ＜総括＞

| 出題数 | 現代文　2題・古文　1題 | 試験時間 | 90分 |
|---|---|---|---|

・大問二は、客観的な描写を可能にするものとみなされていた言文一致体が抱える矛盾への疑問から、小説世界を統括する一人称の「私」が生じた経緯を述べた文章。
・文章は読みやすいが、解答のポイントとなる内容を解答欄にほどよく収まるようにまとめるのに工夫を要する。
・昨年に比べ、解答欄の分量が全体で1行減ったが、難易度は例年と変わりはない。

## ＜本文分析＞

| | |
|---|---|
| 大問番号 | 二 |
| 出　典（作者） | 安藤宏『「私」をつくる　近代小説の試み』 |
| 頻出度合・的中等 | なし |
| 分　量前年比較 | 分量（減少・変化なし・増加） |
| 難　易前年比較 | 難易（易化・変化なし・難化） |

## ＜大問分析＞

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど） |
|---|---|---|---|---|---|
| 二 | 評論 | 問一 | 記述式 | 標　準 | 傍線部の理由説明問題。（解答欄3行） |
| | | 問二 | 記述式 | 標　準 | 傍線部の理由説明問題。（解答欄3行） |
| | | 問三 | 記述式 | 標　準 | 傍線部の理由説明問題。（解答欄4行） |

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

・二は、理系の単独の出題であるが、理系の受験生にとって問題の水準は決して平易とはいえない。したがって、二の対策学習を特別におこなうというよりも、共通問題一のレベルに焦点を合わせて学習するようにしておきたい。
・どのようなジャンルの文章であれ、単に字面を追うのではなく、その主題を本文全体から的確に把握すると共に、文脈を精確に押さえる読解力と、その内容を整理し適切に説明する記述力が不可欠である。

© 河合塾　2017年

# 国語(現代文・古文)　京都大学　理系学部（前期）　3／3

## ＜総括＞

| 出題数 | 現代文　2題・古文　1題 | 試験時間　90分 |
|---|---|---|

・理系の問題文は、近世後期の随筆からの出題であった。
・昨年と同様、解答数は3つで、現代語訳1つと、説明問題2つであった。
・昨年と違って和歌に関連する設問があった。

## ＜本文分析＞

| | |
|---|---|
| 大問番号 | 三 |
| 出典（作者） | 『海人のくぐつ』（中島広足） |
| 頻出度合・的中等 | 出典・出題箇所は稀 |
| 分量前年比較 | 分量（減少・変化なし・増加）約330字（前年約360字） |
| 難易前年比較 | 難易（易化・変化なし・難化） |

## ＜大問分析＞

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど） |
|---|---|---|---|---|---|
| 三 | 随筆 | 問一 | 記述式 | 標準 | 現代語訳。条件はなかった。「おこたりざま」「さりとも」「さはやぎて」「～わたり」などの語句の訳出がポイント。（解答欄3行） |
| | | 問二 | 記述式 | 難 | 説明問題。傍線部の内容説明問題であるが、「何かさのみはとて」の部分をどのように考えるかによって解答は違ったものになると思われる。根拠をどこに求めて解答を決めるのか、理系の受験生には相当難しい問題であったと思われる。（解答欄3行） |
| | | 問三 | 記述式 | 標準 | 和歌の趣旨を説明する問題。前にある和歌をふまえる条件が付いている。「思ひきや～とは」の訳出を踏まえた説明などがポイント。（解答欄4行） |

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の内容を正確に理解する練習を平素からおこなっておくこと。それによって説明問題にも対応できるのである。
・本文全体を現代語訳できるかどうかが京大理系古文の根本である。現代語訳を記述する練習がいちばんに望まれる。
・和歌にかかわる問題は今年だけでなく過去多くの年で出題されているので、修辞・現代語訳・趣旨の説明など、和歌の対策は必ずしておきたい。

© 河合塾　2017年